

第三者評価結果報告書

総括	
対象事業所名	アスクあざみ野保育園（旧保育室）
経営主体(法人等)	（株）日本保育サービス
対象サービス	横浜保育室
事業所住所等	〒225-0002 神奈川県横浜市青葉区美しが丘5-31-6
設立年月日	平成9年7月1日
評価実施期間	平成26年12月～平成27年4月
公表年月	平成27年 6月
評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部
評価項目	横浜市版
総合評価（優れている点、独自に取り組んでいる点、改善すべき事項等）	
【施設の特徴】	
1.園及び周辺的环境と特徴	
あざみ野保育室は平成9年に開園し、0～2歳児を対象として定員42人であり、現在36人が在園しています。東急田園都市線・地下鉄ブルーラインあざみ野駅から徒歩10分の住宅街に位置し、木造2階建ての1階および2階の1室を占め、遊具のある園庭もあり、子どもたちは活発でのびのびした園生活を楽しんでいます。	
2. 園の特徴	
保育室ではクッキング保育、設置法人の講師による英語教室・リトミック・体操教室を取り入れ、子どもの楽しむ心や学ぶ楽しさを育むプログラムを提供しています。小規模な園であり職員たちの目が行き届きやすく、かつ、子どもたちに公平に対応しています。	
【特に優れていると思われる点】	
1. 子どもに対する職員のきめ細かい観察に基づく配慮	
職員が子どもをきめ細かく観察し、個別月間指導計画の評価・反省欄に詳細に記述し、次月の指導計画に結びつけています。 指導計画記載の例（趣旨を記述） 2歳児A（ねらい）泣かずに気持ちを伝える。（評価・反省）突然泣き出し、問いかけになかなか答ええないが、今後もしっかり気持ちを受け止めてあげ、気持ちの切り替えを出来るようにしていく。	
2. 保護者の園に対する高い信頼	
子どもたちへの職員のきめ細かい愛情をもった対応や、一日の子どもの様子を詳細に記述した保育連絡帳などを通して保護者の園への信頼度が高く、保護者アンケート結果では、園の基本方針に関する認知と共感、入園時の園の対応、日常の保育内容（遊びや生活）、職員の保護者への対応について肯定的評価は100%であり、園に対する総合満足度は96%と極めて高い結果を得ています。認可保育園移行後も保護者の高い信頼を維持することを期待します。	
3. 職員間の情報共有と認可保育園に向けた連携体制	
担任以外の職員がいつもと違うクラスに入り、異なる目線で観察し、保育方法や子どもの育ちな	

どについて気づいたことをリーダー会議や職員会議で話し合い、職員全員で子どもたちに気を配るようにし、職員間で気兼ねなく意見や提案を言える土壌にもなっています。園目標3項目「健康な身体を育てる」「豊かな感性を育てる」「優しい心を育てる」に加えて、4月の認可保育園移行を念頭に、全職員が園内研修で話し合いを重ね、4項目目として「自分に自信をもち自立する心を育てる」を加えました。

【特に改善や工夫などを期待したい点】

1. 一時保育の実施

一時保育の体制はありますが実績がありません。園の掲示板などを通じて引き続き近隣に積極的に広報し、地域へのサービスに貢献することが期待されます。

2. 保育室としての自己評価の公表

保育室としての自己評価結果、把握した改善課題、今後の取組みについて方法を工夫して公表することが期待されます。

評価領域ごとの特記事項

<p>1.人権の尊重</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保育理念は「子どもの自ら伸びる力」、「五感で感じる保育」、園目標は「あかるく げんきに のびのびと」であり、子どもを尊重したものになっています。保育理念、運営理念に沿って保育課程、指導計画を策定しサービスを実施しています。 ・全職員は入社時に守秘義務の誓約書を交わし、他園の事例などをもとに会議で話し合い、個人情報園外での口外を禁止し、記録は施錠できる棚に保管管理しています。 ・子どもの名簿は誕生日順で、グループ分け、役割、持ち物に性差区別はなく、職員は性差について無意識に保育をしていないか、各種の会議やクラスミーティングで話し合っています。
<p>2.意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入園前面接で健康調査票など必要な書類を提出してもらい、園児別ファイルに綴じ職員間で情報を共有しています。 ・清掃記録表に従って清掃し、園内外を清潔に維持し、全クラスにエアコン、加湿器、空気清浄器を設置・稼働し、温湿度計で適正な環境に維持されています。午睡時以外はカーテンを開け、陽光を取り入れています。 ・各クラスとも保育室内にマットやキッチンなどのごっこ遊びのセットを置いてコーナーを作り、小集団で行動できるように環境を工夫しています。沐浴設備、温水シャワーがあり、0～2歳児全員が必要に応じて使用しています。 ・全員の子どもに個別指導計画が作成されており、個別の発達過程を反映した計画となっています。離乳食への移行、トイレトレーニングなど保護者と常時連携しています。 ・テラスでさつまいも、赤かぶを栽培し、天気の良い時は午前午後園庭遊び、隣接の練武館でリズム運動、雨天は室内でマットや跳び箱で体を使う活動を行います。 ・0、1歳児の食べず嫌いをなくすため、お腹が空いている最初におかずを提供し、2歳児には一人一人の量を加減して完食の喜びを持たせています。2歳児に

	<p>は食材の体への役割を色別で説明し、配膳の手伝いをしてもらい食事への関心を高めています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・午睡時に乳幼児突然死症候群への対策として0歳児は5分毎、1歳児は10分毎に呼吸チェックをしています。2歳児は寝ている姿勢を確認しています。 ・子どものお迎え時に、その日の子どもの様子を伝えています。保護者との個人面談、保護者参観を年2回行っています。 ・地域の子育て支援ニーズについて職員会議などで話し合っています。見学者からの子育て相談が9件ありました。青葉区の子育て支援拠点ラフルと連携し、親子で遊ぶ広場、各種イベントや講座などをパンフレットで紹介しています。
<p>3.サービスマネジメントシステムの確立</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・配慮を要する子どもについて、ケース会議で子どもの様子、今後の保育方法などを検討し議事録に残しています。 ・各保育室内はバリアフリーになっており、廊下は広く幅をとっています。障がい児が在籍する場合は、横浜市地域療育センターあおばと連携する体制があります。 ・虐待が明白になったときは設置法人、青葉区福祉保健センターや横浜市北部児童相談所へ通報する体制があります。 ・食物アレルギー疾患を有する子どもについては医師の指示書で除去食を提供し、医師の指示に従って解除しています。除去食を提供する際は、給食室で一覧表に基づいて複数の職員が口頭と目視で確認し、配膳時に再度複数の職員が名前と除去内容を読み上げて確認しています。 ・英語、中国語による保育園説明冊子、英語版の子どもごとの月間登降園予定表やプールカードなどを用意しています。 ・苦情受け付けは主任と各クラスリーダー、解決責任者は園長であり、行政の苦情・相談窓口として青葉区福祉保健センター子ども家庭支援課の連絡先を「園生活のしおり」に掲載しています。 ・健康管理マニュアルがあり、園では子どもの健康状態を把握するため、入園時に予防接種、既往歴など必要事項を記載した個別の健康調査票を保管しています。 ・健診結果を個別の健康調査票に記載し、当日保護者へ渡し、予防接種など追加記入依頼と共に確認をしています。健診の結果保護者からの質問、疑問は園医に確認し連携を取っています。 ・衛生管理マニュアルがあり、各クラスと沐浴所、トイレに清掃マニュアルと清掃記録表があり、園内は清潔に維持されています。 ・毎月1回の消防訓練は職員が緊急時にスムーズに行動できるよう、様々な時間帯で実施し通報・消火の訓練を行っています。玄関はオートロックで顔と名前を確認し開錠しています。



<p>4.地域との交流・連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の子育て支援ニーズについて職員会議などで話し合っています。見学者からの子育て相談が9件ありました。外堀の掲示版「お知らせ」に子育て相談を受け付ける旨を掲示しています。青葉区の子育て支援拠点ラフルと連携し、親子で遊ぶ広場、各種イベントや講座などをパンフレットで紹介して、子育て支援のネットワークに参加しています。 ・設置法人本部のホームページ、横浜市こども青少年局の「ヨコハマはびねすぽっと」、情報誌「まみたん園ナビ」に当園の情報を提供しています。
<p>5.運営上の透明性の確保と継続性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・設置法人のコンプライアンス委員会があり、倫理・法令遵守を指導しています。設置法人の決算結果が公表されています。 ・リサイクル、省資源の一環として牛乳パック、ペットボトルなどの廃材を玩具などの材料にしています。省エネルギーのため、待機電力節減をし、不要な照明を消しています。 ・認可保育園に来年度移行、年度計画など重要な計画について運営委員会を開き、クラスリーダーと保護者代表者が集まり説明し運営委員会の承認を得ています。 ・園長、主任は保育現場に入って全職員の業務状況を観察して把握し、職員の年齢、経験、能力を勘案して助言指導を行い、また、職員の肉体的、精神的健康面に配慮しています。 ・設置法人の企画部門は外部環境の変化に対応して、新たな組織運営のあり方を常に検討しています。重要な情報は、園長会議で報告され、園長は園に持ち帰って職員会議で報告しています。
<p>6.職員の資質向上の促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・設置法人が作成した「保育士人材育成ビジョン」に、経験や年齢にあった役割が明文化されており、階層別研修、自由選択研修が設けられています。 ・設置法人は人材育成のため新卒、3年目、4年目以上と経験年数と階層別に必要な内容の研修を企画し、職員は個別に研修計画を立て内外の研修を受講し、園長との年に2回の面談で達成度を話し合い、次の目標を設定しています。 ・園長は月に1回園内研修を実施し、非常勤職員は研修レポートや会議議事録、日々のミーティングで知識や情報を得ています。 ・設置法人が派遣する専門講師が英語レッスンと体操教室を指導しています。気になる子どもについては㈱日本保育総合研究所の発達支援チームの指導を受けています。 ・職員は自己評価の内容とクラス内のねらいから抽出した課題を園内研修で話し合い、園全体の問題として捉え次期計画に反映させています。

評価機関による評価



3つ：高い水準にある、2つ：一定の水準にある、1つ：改善すべき点がある

評価領域Ⅰ 利用者本人（子ども本人）の尊重

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>I-1 保育方針の共通理解と保育課程等の作成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育理念は「子どもには情熱をもってその心を観察し、創意工夫をして優美に接しましょう」、園目標は「健康な身体を育てる、豊かな感性を育てる、優しい心を育てる」であり、職員には入社時に園理念・園目標を記載した「園生活のしおり」を配付し、入社後は職員会議などで話し合って日々の保育を行っています。理念と園目標は玄関に職員・保護者に目につきやすいように掲示しています。 ・保育課程は保育理念、園目標に沿って作成し、年齢ごとに「発達過程」と「ねらい」の欄などを設け、子どもの成長に合わせたものになっており、子どもの最善の利益を第一義にしています。「保護者・地域等への支援」の欄を設け、保護者とのコミュニケーションに配慮しています。年度末に全職員が職員会議で見直して作成し、5月の保護者会で説明して、保護者の理解に努めています。変更がある場合はその都度伝えることにしています。
<p>I-2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・入園前に園長、担任が保護者と面接し、入園前面談シートを作成しています。面接では子どもと一緒に来てもらい、保護者と子どもの関係、子どもが好む遊びやくせなどを観察しています。面接時に健康調査票など必要な書類を提出してもらい、また、子どもの生育歴や家庭状況を確認して面談シートに記入し、面接時で得た諸情報は園児別ファイルに綴じ職員間で情報を共有し、入園後の日々の保育に活用しています。 ・ならし保育は、必要性を保護者に説明し保護者の就労状況を勘案して行っており、約1週間かけて段階的に保育時間を延ばしています。新入園児にたいして主担当者を決めることにより、子どもが安心して園生活を過ごせるようにしています。全クラスとも園児別の連絡ノートを使用し、園や家庭での子どもの様子を記載して、園と保護者の情報連絡を密にしています。 ・年齢別に、年間指導計画、月間指導計画、週案を作成し、評価・反省欄を設けて終了段階で評価反省を行い、必要事項は次月（週）の計画に反映させています。職員会議・リーダー会議・昼のクラスミーティングで子どもの状況について意見交換し、それらを指導計画の評価、作成に反映しています。食事、トイレトレーニングなど保護者と緊密に連絡をとっており、保護者の意向を把握して指導計画の評価、作成に反映しています。

I-3 快適な施設環境の確保



・毎日・月ごと・使用ごとに詳細項目を設けた清掃記録表に従って清掃し、園内外を清潔に維持しています。全クラスにエアコン、加湿器、空気清浄機を設置・稼働し、温湿度計で適正な環境に維持されていることを確認しています。午睡時以外はカーテンを開け、陽光を取り入れています。職員は不要な大きな声を出さないようにし、午睡のときは心地よい音楽をかけています。

・各クラスとも保育室内にマットやキッチンなどのごっこ遊びのセットを置いてコーナーを作り、小集団で行動できるように環境を工夫しています。0歳児の保育室はできるだけスペースをわけ、遊び・食事・午睡の時間の前に室内を清掃しています。1歳児の保育室は3区分に分け、食事、遊び、運動・午睡などに使用し、2歳児の保育室は2区分に分け、食事・プログラム・遊び、午睡などに使用しています。沐浴設備、温水シャワーがあり、0～2歳児全員が必要に応じて使用しています。

I-4 一人ひとりの子どもに個別に対応する努力



・全員の子どもについて個別指導計画が作成されており、個別の発達過程を反映した計画になっています。特別な課題のある子どもについては保護者と相談しながら課題に対応した個別（月間）指導計画を準備中です。個別指導計画について評価・反省、見直しをしており、職員会議、リーダー会議、昼のクラスミーティングでクラスの様子を話し合い、個々の子どもの発達過程を考慮しながら指導計画に反映しています。保護者には、送迎時や面談のときに指導計画について話し合い、内容を理解してもらっています。

・生育歴や家庭状況など決められた書式に記入してもらい入園前面接に提出された書類は園児別ファイルに保管しています。子どもの発達状況は児童票（発達記録）に毎月記録し、事務所の園児別ファイルに保管して全職員が閲覧出来るようになっていました。進級時には園児別ファイルの発達記録に基づいて担任間で引継ぎしています。

I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み



- ・配慮を要する子どもについてケース会議で子どもの様子、今後の保育方法などを検討し議事録に残しています。設置法人の発達支援チームが年度初めと8月、9月に来園指導しています。指導結果はファイルされ、職員が閲覧可能になっています。
- ・各保育室内はバリアフリーになっており、廊下は広く幅をとっています。障がい児が在籍する場合は、地域療育センターあおばと連携する体制があります。障がい児保育については、設置法人の研修があり職員が参加しています。
- ・虐待対応マニュアルがあり、虐待が明白になったときは設置法人、青葉区福祉保健センターや北部児童相談所へ通報する体制があります。虐待が疑わしい場合は必要に応じて設置法人と相談し、また、見守りが必要な家庭・保護者については子どもや保護者に声をかけて話を聞く姿勢をとっています。
- ・食物アレルギー疾患を有する子どもについては医師の指示書で除去食を提供し、医師の指示に従って解除しています。入園後は半年ごとに保護者から情報や現状の様子などを確認し、毎月献立表を用意して保護者が確認しています。除去食を提供する際は、給食室で一覧表に基づいて複数の職員が口頭と目視で確認し、配膳時に再度複数の職員が名前と除去内容を読み上げて確認しています。黄色のトレイを用いて一般用のピンクのトレイと区分し、机を別にして誤食を防止しています。
- ・外国籍のある子どもや保護者については、意思疎通が困難な場合に備えて写真や絵、ノートを用意し、意思疎通を図る体制を整えています。

評価分類



評価の理由（コメント）

I-6 苦情解決体制



- ・苦情受け付けは主任と各クラスリーダー、解決責任者は園長であり、玄関ホールに掲示し、「園生活のしおり」にも掲載して保護者に周知しています。保護者が参加する行事の際にアンケートを行い、意見・要望の把握に努めています。運営委員が保護者からの意見・要望を聞き運営委員会で園に伝えています。保護者の意見について職員会議で検討し、書面で回答しています。ご意見箱を玄関に設置してあります。行政の苦情・相談窓口として青葉区福祉保健センター子ども家庭支援課の連絡先を「園生活のしおり」に掲載して入園時に説明し、また、同相談案内のパンフレットを玄関に置いてあります。
- ・業務マニュアルに苦情対応マニュアルがあり、園単独で解決できない場合は設置法人の苦情担当者に相談する体制があります。要望や苦情を受けた場合はクレーム受理票に記録し、職員会議で対応を検討する体制になっています。保護者の意見や要望は些細なことでもクラスノートに記入し、職員間で情報を共有する体制にしてあります。

評価領域Ⅱ サービスの実施内容

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅱ－１ 保育内容[遊び]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの玩具は自分で出し入れができるよう高さや配置を考え、月齢や発達、興味による種類に分け、また、静と動の部屋に分け、コーナーやモンテッソーリ遊具を取り入れて、集団や個別で自分が好きな遊びに集中して取り組める工夫をしています。 ・毎月の製作や運動会の種目、劇遊びなどは子どもたちが好きな絵本から内容を選び、自由遊びではやりたい遊びが見つかるように机やコーナーを設置し、玩具の色や形など種類数を多く準備しています。職員による手作りのベンチ、水時計、モビール、福笑いなどで保育室を豊かにしています。 ・朝の会、散歩、給食など様々な活動の中で、必要な約束事を伝え、社会性を身につけていきます。 ・テラスでサツマイモ、赤かぶを栽培しクッキング保育に活用し、園外散歩では地域の人と挨拶を交わし、公園の自然物を拾い家庭へのお土産としています。 ・異年齢との関わりの機会を3時のおやつ、園庭、散歩、誕生日会、年度末ランチなど計画的に援助しています。 ・天気が良い時は散歩、午前午後の園庭遊び、隣接の練武館でリズム運動、雨天は室内でマットや跳び箱で体を使う活動を行います。 <p><工夫している事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・おもちゃを整理しやすいように写真でその物を写し、箱の前に貼り出し子どもたちはそれに沿って自ら片付けていきます。
<p>Ⅱ－１ 保育内容[生活]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・0、1歳児の食べず嫌いをなくすため、お腹が空いている最初におかずを提供し、2歳児には一人一人の量を加減して完食の喜びを持たせています。2歳児には食材の体への役割を色別で説明し、配膳のお手伝いをして食事への関心を高めています。 ・各保育室は遊びと食事の場所を分け、毎月の行事食、クッキングなどでメリハリがあります。お米は契約農家から購入し他の食材も出来るだけ国産に拘ります。 ・給食日誌や保育日誌をもとに職員会議で喫食状況を話し合い、その結果をエリアの栄養士に報告し、次期の献立や調理に反映させています。 ・入園時の慣らし保育2日目に保護者は試食し、離乳食の流れも含めて意見や感想を聞き、調理や献立に反映させています。 ・眠くない子どもや、短時間で起す子どもなど保護者との連携で個別に対応し、保育室内でうつぶせ寝の禁止に保護者から理解と協力を得ています。0歳児は5分毎、1歳児は10分毎に呼吸と刺激のチェック、2歳児は寝ている姿勢の確認をしています。 ・排泄チェック表を用い、個々の排泄リズムを把握して、トイレで成功すると職員は一緒になって喜んでいきます。その状況は連絡帳で保護者に伝え、毎週のリーダー会議で報告し、担任以外でも共有しています。

Ⅱ－2 健康管理・衛生管理・安全管理
管理[健康管理]



- ・健康管理に関するマニュアルがあり、園では子どもの健康状態を把握するため、入園時に予防接種、既往歴など必要事項を記載した個別の健康調査票を保管し、職員は必要に応じて閲覧可能となっています。1歳児からリング型歯ブラシを用いて、職員が歌とスキンシップで歯磨きに慣れさせています。
- ・健診結果を個別の健康調査票に記載し、当日保護者へ渡し予防接種など追加記入依頼と共に確認をしています。健診の結果保護者からの質問、疑問は園医に確認し連携を取っています。
- ・入園前に登園許可が必要な感染症について説明をし、発症時は園に連絡することを保護者に周知しています。毎月保健だよりを配付し、玄関先に現状を知らせています。

Ⅱ－2 健康管理・衛生管理・安全管理
管理[衛生管理]



- ・衛生管理に関するマニュアルがあり、年度末に内容の見直しを職員会議で行い、意見の集約を設置法人へ持っていきます。
- ・各クラスと沐浴所、トイレに清掃マニュアルと清掃記録が掲げられ職員は確認しています。
- ・職員の提案で作られた手洗い場の「足あとシール」に沿って、子どもたちは手洗いの順番を待ち実行しています。

Ⅱ－2 健康管理・衛生管理・安全管理
管理[安全管理]



- ・安全管理マニュアルと災害マニュアルを備え、園独自の安全チェックシート35項目で職員は毎日確認を行っています。大きな建具は突っ張り棒を使い固定し、低いロッカーはすべり止めを敷き転倒防止対策をしています。赤十字幼児安全法を6人の職員が身につけています。
- ・毎月1回の消防訓練は職員が緊急時にスムーズに行動できるように、様々な時間帯で実施し通報・消火の訓練を行っています。
- ・保育中のケガは軽傷であっても保健日誌に記録し職員会議で改善策を話し合っています。子どものケガを避けるため、手洗い所のカバー、イス収納棚のカバーなどをクッション付きで手作りするなどの改善策が実行されています。
- ・玄関はオートロックで顔と名前を確認し開錠しています。不審者出没場所別対応マニュアルを独自で作成し、合言葉を決めて、建物内の幼児施設と連携して警察の指導を受けています。

評価分類

評価の理由（コメント）

Ⅱ－3 人権の尊重



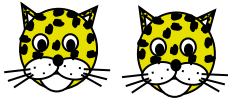
- ・職員は毎日行うクラスミーティングで子どもに対する声かけ、叱り方、言葉遣いなどお互いに気づいた点を話し合い、理念の「子どもの心の観察」を再認識し、子どもの気持ちに寄り添った保育を心掛けています。
- ・全職員は入社時に守秘義務の誓約書を交わし、他園の事例などをもとに会議で話し合い、個人情報園外での口外を禁止し、記録は施錠できる棚に保管管理しています。
- ・子どもの名簿は誕生日順で、グループ分け、役割、持ち物に性差区別はなく、職員は性差について無意識に保育をしていないか、各種の会議やクラスミーティングで話し合っています。

Ⅱ-4 保護者との交流・連携





- ・年度初めの保護者会で再度、基本方針を説明し、毎月のクラスだよりに「今月の園目標」を明記し、日々の送迎時に口頭で伝えるなど説明の機会を多く持っています。
 - ・保護者へ保育連絡ノート、クラスだより、申し送りノートの活用で、担任以外でも日々の活動の様子や子どものエピソードを伝えています。保護者会は土、日、祝日に行い、個別面談は年に2回実施しています。
 - ・保護者からの相談は園長が別室で行い、記録し職員間で共有し継続支援をしています。内容によって設置法人のアドバイザーから助言を受けています。
 - ・毎月、園だより、クラスだより、保健だより、給食だよりを保護者に配付し、毎日の活動をボードに書いてクラスに掲げ、本日の給食サンプルを玄関に提示し、保護者に情報提供しています。
 - ・年度初日に年間行事予定表を配付し、2歳児の参加型参観は5～9月、10～2月と日にちを限定せず保護者が参加しやすい設定をしています。
- <工夫している事項>
- ・年に3回、5、9、3月に目標や方針に対しての保育経過をクラス毎にまとめて作成し、他クラスを同時に知ることが出来るよう全保護者に配付しています。
 - ・保育参加の一環として七夕祭り、運動会、クリスマス会、誕生会、教材作りなどの手伝い日を数日にわたって設定しており、参加の保護者間の親睦が図られています。


評価領域Ⅲ 地域支援機能



評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅲ-1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の子育て支援ニーズについて職員会議などで話し合っています。 ・一時保育の体制はありますが、本年度は実績がありません。 ・外堀の掲示版「お知らせ」に子育て相談を受け付ける旨を掲示しています。見学者からの子育て相談が9件ありました。 ・青葉区の子育て支援拠点ラフールと連携し、親子で遊ぶ広場、各種イベントや講座などをパンフレットで紹介して、子育て支援のネットワークに参加しています。 <p><コメント・提言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・一時保育が可能であることを、園の掲示板などを通じて近隣に引き続き積極的に広報し、地域へのサービスに貢献することが期待されます。

評価領域Ⅳ 開かれた運営


評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅳ－１ 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種行事（七夕祭り、運動会、リトミック）に地域住民を招待し、七夕祭りに6組の親子が参加してゲーム、おもちゃ遊び、食事などを楽しみました。 ・園の掲示板で、一時保育、育児相談、乳幼児突然死症候群のリーフレット、光化学スモッグ発令、各種行事などについて地域住民に知らせています。 ・園の周囲の清掃、除草を行っています。散歩のときは地域住民と挨拶を交わし、公園では地域の子どもたちと一緒に遊んでいます。 ・園に隣接する錬武館（道場）でリトミックプログラムを行っています。 ・近隣にある3保育園と年間計画を立てて2歳児の交流をしており、どの園が主体になり何処で何をするかなどを職員同士で相談しています。 ・地域イベントのパンフレットを持ち帰り用に玄関に置き、保護者に情報を提供しています。
<p>Ⅳ－２ サービス内容等に関する情報提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・設置法人のホームページがあり、園の概要や行事の様子を開示しています。横浜市こども青少年局の「ヨコハマはびねすぽっと」、青葉区役所のホームページ、情報誌「まみたん園ナビ」に当園の情報を提供し、また、青葉区の子育て支援拠点に、運営方針やサービス内容など必要な情報を記載している「入室のご案内」（パンフレット）を置いています。園の見学者に「入室のご案内」（パンフレット）を配布して説明しています。 ・設置法人のホームページに当園の見学ができることを記載し、サービス内容の問い合わせには、「入室のご案内」や「園生活のしおり」などで常時対応しています。見学希望の問い合わせがあった場合は園長が対応し、見学者の都合の良い日時を聞いて対応しています。

評価領域Ⅴ 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅴ－１ 職員の人材育成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の人員不足が起こると設置法人に報告し直ちに補充を受けています。設置法人で人材育成のため新卒、3年目、4年目以上と経験年数と階層別に必要な内容の研修を企画し、職員は自分に合った内容の研修を受講しています。園長との年に2回の面談で達成度を話し合い、次の目標を設定しています。 ・職員は個別に研修計画を立て内外の研修を受講し、園長は月に1回園内研修を実施し、非常勤職員は研修レポートや会議議事録、日々のミーティングで知識や情報を得ています。

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>V-2 職員の技術の向上</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・園長は園長会から持ち帰った事例をもとに話し合いを行い、職員は他園に行く機会を持ち自園の保育サービスについて振り返っています。設置法人の発達支援チームとエリアマネージャーの巡回や、建物内の幼児施設の園長から評価、指導を受けています。 ・所定の様式に基づき日案、週案、月間、年間の各指導計画にねらい、内容、配慮の欄を設け子どもの最善の利益を優先し、評価反省を行っています。 ・職員は自己評価の内容とクラス内のねらいから抽出した課題を園内研修で話し合い、園全体の問題として捉え次期計画に反映させています。 <p><コメント・提言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育園としての自己評価を園だよりなどに掲載し公表することを望みます。
<p>V-3 職員のモチベーションの維持</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・設置法人は職員の役割への期待水準を「人材育成ビジョン」として明文化しており、園長、エリアマネージャーがシートを用いて査定を実施しています。 ・職員は職員会議、ケース会議、リーダー会議、クラスミーティング、非常勤アンケートで意見を出し合っ業務の改善に繋げていき、園長は年に2回の面談で職員の満足度、要望を把握し継続的にフォローしています。

評価領域VI 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>VI-1 経営における社会的責任</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・設置法人が作成した業務マニュアルに、守るべき法、規範、倫理などが明文化され、職員は代表研修を受けてこれらの重要性を周知しています。設置法人にコンプライアンス委員会があり各園を指導監督しています。園長は会議で得た情報や、設置法人からファックスで得た情報をもとにして、他施設で発生した不正、不適切な事例について職員に伝え、職員は内容を確認し自園の対応案をレポートにして提出し、職員会議で話し合っています。 ・設置法人のホームページで財務諸表、会社の運営状況を公開しています。 ・不要なコピーの裏紙を再利用し、リサイクルコーナーを用意して保護者からも牛乳パック、ペットボトル、雑誌などを回収して玩具（積み木など）、靴箱、靴下入れ、マット、イス、ペットボトルで作った水時計などを作っています。「水を大切に」のシールを貼り、不要な照明は消し、待機電力節減をして省エネルギーに取り組んでいます。保育課程に「身の回りの資源を大切にする」項目を設けて環境への取り組みをしています。

VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等



・理念・園目標を玄関に掲示し、同内容を記載した「園生活のしおり」を全職員に配付しています。設置法人の理念について採用時に研修し、理念・園目標について園長が入職時のオリエンテーション・職員会議・職員面談などで随時説明し周知に努めています。園長は職員と研修計画や結果確認、自己査定評価を通じて年4回面談する機会があり、理念・園目標の理解について確認しています。

・認可保育園への来年度移行、年度計画など重要な計画について運営委員会を開き、クラスリーダーと保護者代表者が集まって意見交換した上で、運営委員会の承認を得ています。

・認可保育園移行準備を26年度中期計画の項目とし、詳細項目を園内研修のテーマとして職員全員で取り組んでいます。具体的には、3～5歳児の発達過程の理解、保育課程・指導計画の作成、食育への取組み体制、環境構成や保護者への配慮事項などを項目としています。

・主任は保育現場に入って全職員の業務状況を観察して把握し、職員の年齢、経験、能力を勘案して助言指導を行っています。また、職員の肉体的、精神的健康面に配慮しています。

VI-3 効率的な運営



・26年度までの中期計画が作成されており、「27年度認可保育園への移行へ向けて研修、計画を行っていく」「地域との連携を深める」を項目とし、さらに具体的内容を展開し、前期の反省・改善点を記入しています。

・設置法人が将来の組織運営について検討しており、エリア長会議、園長会議で話し合っています。また、設置法人は運営に関して外部の保育やリスク管理の専門家、監査法人の弁護士などの意見を取り入れています。

施設名： アスクあざみ野保育室様

ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

利用者家族アンケート

結果の特徴

◇アンケート回収率 対象家庭数36 アンケート回収数23 回収率64%

◇総合満足度

施設に対する総合的評価の満足度(「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせたもの)は、96%となっています。

◇非常に満足度の高い項目(満足度が100%)

1. 園の基本方針について

「よく知っている」と「まあ知っている」は合わせて96%と高く、そのうちの100%が基本方針に賛同しています。

2. 入園した時の状況では、

方針の説明、生育歴を聞く対応、保育方針や1日の過ごし方の説明の満足度が100%です。

3. 日常の保育 遊びについて

クラスの活動や遊び、戸外遊び、施設外活動、友だちや保育士との関係は満足度100%です。

4. 日常の保育 生活について

昼寝や休憩への対応が満足度100%です。

5. 職員の対応について

子どもが楽しんでいるかが満足度100%です。

◇比較的満足度の低い項目

1. ケガに関する保護者への説明は、「不満」「どちらかといえば不満」が合わせて13%あります。

2. 不審者対策で、「不満」「どちらかといえば不満」が合わせて13%あります。

調査結果

■保育室の基本理念や基本方針について

施設の基本理念や基本方針の認知	よく知っている	まあ知っている	どちらともいえない	あまり知らない	まったく知らない	無回答
	40%	56%	4%	0%	0%	0%

↓ 問1で「よく知っている」、「まあ知っている」と回答した方のうち

付問1

理念や方針への共感	共感できる	まあ共感できる	どちらともいえない	あまり共感できない	共感できない	無回答
	96%	4%	0%	0%	0%	0%

■施設のサービス内容について

問2 入所した時の状況

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
見学の受け入れについては	87%	9%	0%	4%	0%	0%
	その他:					
入所前の見学や説明など、園からの情報提供については	87%	9%	0%	4%	0%	0%
	その他:					
保育室の目標や方針の説明には	83%	17%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	83%	17%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
保育園での1日の過ごし方についての説明には	83%	17%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
入所後に食い違いがなかったかなども含め、費用やきまりに関する説明については	92%	4%	4%	0%	0%	0%
	その他:					

問3 保育室に関する年間の計画について

	満足	どちらかといえは満足	どちらかといえは不満	不満	その他	無回答
年間の保育や行事についての説明には	61%	35%	4%	0%	0%	0%
	その他:					
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	66%	26%	4%	0%	4%	0%
	その他:					

問4 日常の保育内容について

遊びについて

	満足	どちらかといえは満足	どちらかといえは不満	不満	その他	無回答
クラスの活動や園の遊びについては (お子さんが満足しているかなど)	96%	4%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	87%	13%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
保育室のおもちゃや教材については (お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	83%	13%	0%	0%	4%	0%
	その他:					
自然に触れたり地域に関わるなどの、施設外活動については	78%	22%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
遊びを通じた友だちとの関わりや、保育士との関係などについては	91%	9%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	92%	4%	4%	0%	0%	0%
	その他:					

生活について

	満足	どちらかといえは満足	どちらかといえは不満	不満	その他	無回答
給食のメニューの充実については	83%	13%	0%	4%	0%	0%
	その他:					
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	83%	17%	0%	0%	0%	0%
	その他:					

基本的生活習慣（衣服の着脱、手洗いなど）の自立に向けての取り組みについては	87%	9%	0%	0%	4%	0%
	その他：不明					
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	96%	4%	0%	0%	0%	0%
	その他：					
家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めるなど、園でのおむつはずしへの取り組みについては	57%	17%	0%	4%	22%	0%
	その他：まだ積極的に実行していない。まだ始めている。					
お子さんの体調への気配りについては	79%	13%	4%	4%	0%	0%
	その他：					
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	74%	13%	4%	9%	0%	0%
	その他：					

問5 保育室の快適さや安全対策について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
園舎、園庭などの施設については	31%	61%	4%	4%	0%	0%
	その他：					
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気については	70%	26%	4%	0%	0%	0%
	その他：					
外部からの不審者侵入に対する備えについては	35%	48%	9%	4%	4%	0%
	その他：					
衛生管理や感染症対策については	78%	13%	0%	9%	0%	0%
	その他：					

問6 保育室と保護者との連携・交流について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	61%	31%	4%	0%	4%	0%
	その他：					
保育室だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	61%	35%	4%	0%	0%	0%
	その他：					

保育室の行事の開催日や時間帯への配慮については	65%	31%	0%	0%	0%	4%
	その他:					
送り迎えの際のお子さんの様子に関する説明については	84%	4%	4%	4%	4%	0%
	その他:					
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	79%	13%	4%	0%	4%	0%
	その他:					
保護者からの相談事への対応には	83%	13%	0%	4%	0%	0%
	その他:					
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	78%	13%	9%	0%	0%	0%
	その他:					

問7 職員の対応について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
あなたのお子さんが大切にされているかについては	87%	9%	4%	0%	0%	0%
	その他:					
あなたのお子さんが保育室生活を楽しんでいるかについては	91%	9%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	61%	13%	0%	0%	26%	0%
	その他: 知らないけれど、正しく対応していると思う。					
不満や要望を気軽に言えるかどうかについては	88%	0%	4%	4%	4%	0%
	その他:					
不満や要望への対応については	79%	13%	4%	0%	4%	0%
	その他: 要望したことがないので不明					

問8 保育室の総合的評価

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答
総合満足度は	87%	9%	4%	0%	0%

観察方式による利用者本人調査

アスクあざみ野保育室

【0歳児】

＜お誕生会＞

朝の会は職員に子ども2人が抱っこされ、他の4人は壁にもたれて始まります。名前を一人一人呼ばれて「はい」の返事とともに職員とハイタッチをします。全員が呼ばれたあと絵本の読み聞かせが中ほどまで進むと、「お誕生会が始まるよ」の他の職員からの声と「こぶた、たぬき、きつね・・・」の歌が聞こえます。もっと本が読みたい子どもがぐずると、「豚さんが待ってるよ」の誘いに皆トコトコと隣の部屋のお誕生会会場に移動します。4人の子どもが2人ずつ職員2人にくっついて座り、1、2歳児の中に混ざって座る子どもが2人います。0歳児に片言で話しかけられた2歳児は「にー」と笑って返しています。パネルシアターが始まると子どもたちは食い入るように見つめ、犬やネズミの登場に指差して「わんわん」「ちゅうちゅう」と話に入り込んでいます。3歳になったお兄さんが一人一人ケーキのろうそくを吹き消すと「すごい」と参列者全員の歓声と共に拍手が響きますが、一緒になって小さな手をたたいて祝福しています。

＜食事＞

離乳完了食は深皿の一皿盛で、離乳後期食は銘々におかずとご飯とスープが盛られています。スプーンを持ちながらも手づかみしてしまう6人です。食事中に1人がスプーンを振り上げると、他の子どもも真似をして頭の上にかざしています。職員が「スプーンはおもちゃではありません。遊ばないで下さい」と声をかけ、子どもたちはまた食べ始めます。一人が立ち上がって「たべたー」と職員に報告すると、「〇〇ちゃんご飯がお口から出ているよ。お口の中が全部なくなったらごちそうさまね」。離乳後期の子どもは「もういらない」とばかりに食器を向こうへ押しやりますが、職員が「よく食べたわね、もう少しでお皿ピカだね」と口に入れてあげるとまたもぐもぐと食べています。最後にお茶を飲んで午睡の準備に入ります。

【1歳児】

＜遊び＞

朝の会の後、職員が「今日は雪が降っているから部屋の中で遊びます」と伝え、背の低い仕切りとロールカーテンで仕切られた保育室で月齢順にマット、おしごと、自由遊びの3つに分かれて遊びます。

マット遊び

職員が「ごろごろ」のお手本を見せている間、子どもたちは壁際の雑誌で作った手作りベンチに座っています。最初マットの平面上をごろごろして、体が慣れるとお山を作ってそこからごろごろと滑り落ちます。最初乗り気でなかった子どもも、お山ができると大きな笑い声で順番を待っています。笑い声に引かれて他のグループの子どもがそっと覗きに來ています。

おしごと

机の上でつまむ、押し込むなど指先を使う遊びをしています。粘土、つまんで入れ替え、ひも通しなど子どもたちの目は真剣です。一つの作業が終わると職員の声かけに子ども同士で交換をしています。時間のかかる作業や、彩にこだわったり、友だちがやっている方が楽しく見えたりと様々な状況が見られます。職員が「そろそろマットへ行こうか」と声をかけると「うん」とすぐに返事があり体がマットの部屋に向きますが、「その前に何をやるのかな」「お片付け」皆の声が揃いました。

自由遊び

子どもたちは最初、何をしようかと立ったり座ったり、隣のマットが気になったり落ち着かない様子でしたが、職員がブロックを触ると、大半がブロックコーナーへ行きますが、一人はお買物バッグに、一人は電車とレールにと抜けていき、ブロックは職員と一人の子どもだけになりました。色を揃えて作り上げ、職員が「きれいな色だね」とほめると子どもは満足げでした。パイプ状のおもちゃを見つけた子どもに「声を出してごらん、どこから聞こえるかな」と催促し、「うおー」と出した声が筒の先から聞こえ、子どもは何度も何度も声を出し確認しています。

各グループは交替してそれぞれの遊びについています。

<排泄>

遊びの後にお茶を飲んで一息入れると職員にトイレを促されています。職員に呼ばれてオムツの交換を助けてもらいます。ある子どもは脱いだズボンを自分で履きたくて、何とかお尻までズボンが届いて、職員が「すごい、あとすこしだよ」と後ろからズボンを引っ張って完成でした。3人の子どもがトイレに行き、しばらくして1人の子どもが「でたぞー」とドアで叫んで、クラスの皆に拍手喝さいを浴び、それでもなお3人の職員一人一人に報告し褒め言葉を受けています。

<食事>

職員が食事の前に献立の説明をし、「いただきます」の歌を全員で歌います。全員フォークを使い、深皿に主菜、副菜、パンが入っています。魚も野菜もパンも好評でもぐもぐ進みます。時々職員が「姿勢はどうですか、手はお皿を押さえていますか」と声をかけ、子どもたちは姿勢を正します。月齢の低い子どもを職員が見守り、職員の手で時々口に運んでいますが、「あーん」と職員に催促し、職員から「なんて呼ぶの?」「せんせい」「そうね、せんせいって呼んでね」またしばらくすると「あーん」と職員を呼び、職員から「なんて呼ぶの?」「せんせい」「そうね」と数回繰り返されました。食事が終わった子どもから歯磨きを自らして、仕上げを職員にしてもらいます。お茶を飲んで午睡の準備になります。

【2歳児】

<粘土遊び>

子どもたちがテーブルに向かってワイワイ騒ぎながら座っています。職員が新聞紙を広げています。「今、粘土持ってくるからね。手はおひぎ。」皆に粘土が配られました。粘土を手

にして思い思いに何かをイメージしながら形を作り始めました。丸めてトントンたたいて広げています。「どれ、見せてー」と職員が声をかけます。「ハンバーグだよ」と子どもが嬉しそうに手にしたかたまりを見せます。「アンパンマン作ってるの」と別の子どもが声を上げています。「卵だよ」「赤ちゃん卵だ」子どもたちの間で声が飛び交っています。「だめえー」と声が上がります。職員が横に来て「どうしたの」と声をかけています。隣りの子どもが粘土を取ろうとしました。「これはね、〇〇ちゃんのだからね。△△ちゃんのはここにあるでしょ」職員に言われた子どもはしぶしぶ自分のかたまりをこねだしました。別の子どもが「ハサミ」と言うと、職員が「ハサミは使わないの」と応じます。「これ、妖怪ウォッチ」出来た粘土の型を誇らしげに上に挙げてかざす子どももいます。別の子どもに職員が「ちょっと自分でやってみて」しばらくするとその子どもが「できたー」と職員に見せます。「できた？おー、出来たねえ。すごいすごい」パチパチと手を叩いてあげています。

粘土遊びの後片付けが進んでいます。「〇〇ちゃん、まだやる？」声をかけられた子どもが夢中になってプラスチックの型に粘土を詰め込んでいます。やがて皆遊びを止めて順番にトイレに行き始めます。途中に足拭きマットがあり、室内履きの靴底についた粘土を職員がいてねいに拭き落としていきます。

<食事>

当番3人が緑色の三角巾をかぶっています。髪の毛がはみ出ないように職員が手助けして直しています。テーブルに並んでいるトレイに当番たちがパン、おかず、カップのスープ、バナナを運んでいます。トレイに何種類かのシールが貼ってあり、それに合わせて主食、おかず、スープなどを置いていきます。

給食の歌を終えて「お手手をパッチン」みなワイワイと食事が始まりました。「〇〇ちゃん、ニンジンも食べてねー」と職員。子どもたちはめいめい話をしながら食事が進みます。「今日はね、車で来たんだよ」「きのうね、電車に乗ったんだ」「遠いんだね」と会話も進みます。職員に「〇〇ちゃん、頑張って」と声をかけられた子どもが止まっていた手を再びお皿のおかずには伸ばしています。「おいしい」「良かったねえ」子どもと職員が声を交わしています。テーブルにおかずをこぼしている子どもに職員が「待って待って、トレイをもっと前に持ってきてね」とトレイの位置を直しています。「まだお口の中がモグモグね。それが終わったらバナナ食べて」声をかけられて「バナナ！バナナ！」と嬉しそうです。子ども「お野菜、食べちゃった」職員「お！早いなあ、すごいなあ、お魚も食べられるといいなあ」「お魚ないよ」「お魚ね、今日は衣がかかっている見えないんだ。一寸食べてみてー」言われて子どもは魚にも手を伸ばしました。「あしたクッキングだよ」「クッキー作るんだ」職員「もう一寸小松菜食べる？」「オマツ？」「コマツナって言うんだよ。この緑色」子どもたちは楽しそうにお皿を空にしています。「これもう空っぽ。もっと欲しい」「オーケー、今、先生が持ってくるね」食事が終わった子どもは歯みがきをして職員に仕上げをしてもらっています。

<排泄>

職員が一人トイレ室内にいて子どもたちの排泄の様子を見守っています。排泄が終わった

子どもは職員に手伝ってもらいパンツをはいています。「△△先生、○○ちゃんがパンツを取りに行きまーす」トイレ室の外に待機している職員が「はい、○○ちゃん、おいでー」パンツをしまつてある場所に誘導し、子どもは自分で取り出してはこうとします。それを職員が見守り、できないときに手伝っています。手洗い場の前の足型に合わせて子どもたちが並んでいます。職員に手伝ってもらいながら石鹸を使って手を洗っています。排泄と着替えを終えた子どもたちはブロックを箱から取り出して、思い思いに組み立てて遊び始めました。

平成26年度 第三者評価事業者コメント（アスクあざみ野保育室）

《受審の動機》

昨年度に引き続き、第三者評価を受審させていただきました。園の運営を振り返るとともに、今現在や今後の課題を見出す有効な手段として感じたためです。

運営主体の理念として、「利用者に本当に求められるサービスを提供すること」を掲げており、利用者調査を基に保護者のニーズを把握しながら、日々の運営に反映させるべく評価受審に臨みました。評価機関の選定については、現在行っている保育内容に加え、昨年ご指摘いただいた点が、どの程度まで改善できているかを明確に比較できるよう、昨年度と同様の機関へ依頼しました。

《受審した結果》

自己評価での個々や自園の見直しは問題をクリアにしていく上で大変重要であり、新たな気付きが得られる良い機会となりました。全職員が同時期に「保育」を見直すことで運営方針や理念、今後園の目指していく方向性を再確認することが出来ました。このことで、職員の意識が高まり、保育の質の向上につながっていくと感じています。

また今回の保護者アンケートで、高い評価をしていただき大変嬉しく思います。園に寄せて頂いている信頼をこのまま維持していき、保護者の皆様にこのような評価をいただけるよう努めてまいります。

来年度からは認可保育園として運営していくこととなります。今までと違ったニーズが出てくると予想されますので、それらに真摯に耳を傾け、温かみのある保育サービスを提供していけるよう、また、利用者以外の地域住民にも親しみのある、地域に根差した園になれるよう、職員の意識向上を保育の質向上へとつなげてまいります。

最後に、受審にあたりご尽力いただいた、評価機関の皆様、ご多忙にも関わらず、利用者調査にご協力いただいた在園児の保護者の皆様に心より感謝申し上げます。